

令和5年度第2回釧路市地域公共交通活性化協議会（書面会議） 結果報告書

1. 結果

全委員33名中 賛成30名、反対2名、辞退1名

上記のとおり賛成委員が多数であることから、釧路市地域公共交通活性化協議会規約第6条第2項の規定により、議案第1号は承認されたものとする。

2. 委員意見及び回答内容

提出日	委員名	平日便	土日便	意見	意見に対する事務局回答
8月24日	川村委員	賛成	賛成	人手不足や2024年問題により、今後も路線の廃線や減便が想定されることから、居住人口の推計等を勘案し、中長期的視点をもった路線や便数のあり方について検討する必要があると考えます。	事務局といたしましては、運転手不足や燃料高騰、2024年問題など、数年前では想定し得なかった要因により、バス事業者としても致し方ない対応に迫られているものと考えています。中長期的な視点を持つことは重要なことであり、今後の釧路市地域公共交通網形成計画、釧路市地域公共交通再編実施計画の見直しも踏まえ、本協議会の場で議論させていただきたいと考えております。
8月25日	岸委員	反対	反対	これだけ多くの系統の廃止、減便の手続きを書面協議で進めてしまうプロセスに賛成できません。バス事業者はもっと早い段階で提案するべきであり、それに対して行政、住民ができることはないのかなど、今後に向けた対策を協議会で議論する必要があると考えます。今回のやり方では減便、廃止は現状の問題への対処療法に過ぎず、公共交通の維持存続に向けた動きがだれからも出てきません。協議会が形骸化することの強い懸念を持っています。	今回、バス事業者にて乗降調査やデータ分析、ダイヤ組み換えに時間を要したこと、また、スケジュール調整の都合などにより、書面協議ではなく現地による会議開催が難しい状況にありました。委員ご指摘のとおり、本来であれば今回の協議事項については、本協議会の場で複数回にわたって議論されるべき内容であると認識しております。今後はさらにバス事業者との情報連携を密にし、本協議会の場で十分な議論がなされるよう調整をしていきたいと考えております。
8月30日	青柳委員	賛成	賛成	61系統の東高校行きで、乗換にするとどのくらいの時間増になるのかを利用者へ示す必要があるのでは。乗継による割引有無を知りたい。（東高に限らず乗継全般で）	今回のダイヤ改正に当たっては、バス事業者にて影響のある高校や利用者への周知徹底を図っていただく予定となっております。乗継による割引に関しては、R1の再編事業により利用者に影響の出た路線に限って実施しております。（イオン鶴野線、イオン高専線、イオンリフレ線の各路線にて、乗換拠点であるイオン釧路昭和店で阿寒バスが運行する昭和線に乗り換えを行う場合に200円の割引を実施。昭和線に乗り、イオン釧路昭和店でイオン鶴野線、イオン高専線、イオンリフレ線に乗り換える場合も同様）
8月30日	荻原委員	賛成	賛成	平日便、音別駅発6：30及び釧路駅発18：30は学生が毎日利用しているので、なるべく残してほしいです。土日祝日便、音別駅発7：45は学生の利用があるので出来れば残してほしいです。	バス事業者としても乗降調査を行い、利用実態や経営状況等を勘案したうえでのダイヤ改正であると考えております。事務局としては、今回の変更により影響を受ける利用者に対して、きめ細かな説明や代替交通の提示などをバス事業者に対して依頼しているところです。

8月31日	松田委員	賛成	賛成	フィーダー系統（ぐるっと・音別線）との接続について、影響は小さいという理解でよろしいでしょうか。	今回のダイヤ改正にあたっては、フィーダー系統である循環バスぐるっと及び音別線に接続する幹線系統・白糠線の変更が含まれているものの、影響は小さいものと考えております。
9月4日	宮下委員	賛成	賛成	<p>【平日便】</p> <p>①廃線となる系統について これまで釧路バス、利用者の双方と十分に時間をかけて検討した結果だと思っておりますので、これまでの利用者にとりましては不便になることが想像できますが、釧路バスの存続のためにはいたしかたないことだと考えます。</p> <p>③運行時間が変更となる系統について 芦野地区に居住しているため、長い間63番、65番を利用してきました。65番は毎時3本、63番についても毎時2～3本は運行されてきました。札幌市のように、通勤・通学利用者が恒常的にいるのなら、減便、運行時間の変更について検討しなくてもよいのだと思えますが、上記①の理由により認めたいと考えます。 さらなる利用者の減少、釧路バスの業績悪化により、最終的に路線バスが消滅してオンデマンドバスになることは、ぜひとも避けたいと考えます。</p> <p>④増便となる系統について ①に既述したように、すでに十分な検討がされていると思っておりますので、増便については利用者の利便性が高まることから喜ばしいことと思えます。</p> <p>【土日祝日便】 いずれも上記のとおりです。63番が土日祝日に運行されなくなるのは残念ですが、利用者が少ないことは知っていますので、致し方のないことだと理解いたします。</p>	<p>バス事業者としても、職員が実際にバスに乗車し利用者への聞き取りを行うなどの乗降調査を経て、今回のダイヤ改正に至ったものと認識しております。</p> <p>バスの利用促進として、今年度は協議会としての新たな取り組みの他、イオン北海道株式会社様や釧路総合振興局様主催のバスの乗り方教室などを実施しており、これらの事業を継続していくことが重要と考えておりますので、バスの利用増に向けては、引き続き皆さまのご協力を賜りたく存じます。</p>
9月5日	佐藤委員	反対	反対	<p>私どもの団体は、バス利用者が集まったの団体ですから、白樺台の増便を除き、廃線・減便については、賛成することはできません。</p> <p>特に、若草線、土日運行の取り止めは、残念です。また美原線も大幅な減便となっており、利用者のバス離れが心配です。</p> <p>各路線、各便には、それぞれ運行している意味があったと思うのですが、各路線や各便の利用増について、どのように努力されてきたのかが、見えていません。</p> <p>私ども「バスの会」は、結果として決まったバスダイヤの範疇で、一人でも多くの市民がバスを利用するように、今後も活動が続けていく所存です。</p>	<p>若草団地線の土日運行の取りやめは利用者の減少によるものであり、美原線【大曲】の平日運行の減便については、昨年的大幅な減便前の乗降調査と今回の乗降調査による1便あたりの利用者数に変化がなかったことから、運行間隔を拡げたものと伺っております。</p> <p>事務局といたしましても、バスの利用促進として、市民への広報周知やイベント事業、民間事業者と連携した待合環境の改善などに引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。</p>